

東日本事例発表オンライン発表会 エントリーシート

法人名	株式会社マザアス	施設名	マザアス南柏
発表タイトル	『変わる環境に追いつく気持ち』		
研究の目的	短期間で自宅から病院、施設入居と環境が変わる中で、ご本人の気持ちが追いつかず、施設になじめない状況を職員が理解し、試行錯誤しながら改善方法を模索する。		
発表の概要	<p>入居されたものの、環境の変化や病状により食事が摂れず、服薬も出来ず、また入院の影響で意思疎通も難しい中で、「熱いお茶が好き」など、ちょっとした情報を記録に残すことで、ご本人の嗜好を把握。週1回のカンファレンスでは、多職種で情報をやりとりするなかで、服薬の中止、車椅子の変更などを行った。ご本人の意思を尊重しゆっくり介助に関わることで、ご家族の協力でご本人の好きな写真をお持ちいただき居室に飾ったり、ご家族からお聴きしたお話からご本人の性格を職員が理解することで、徐々に施設に慣れ、職員との信頼関係が構築できた。そのような状況の中、少しずつ食事や水分が摂れ、中止していた服薬も出来るようになり、体力や体重が増え、QOLの向上が見られた。</p> <p>身体の痛みなど、まだまだ問題点は出てくるが、課題に合わせ試行錯誤を繰り返し、解決を目指していく。</p>		
研究方法	食事量、水分量、体重、排尿量、トイレの回数の記録を基に、週1回のカンファレンスで多職種による情報共有を行い、PDCA サイクルを構築。どのような変化があったか、どういったことが有効だったのか話し合いを行い、問題解決にあたった。		
成果・結果	入居当初は食事量水分量の低下、服薬拒否、介助拒否、意思疎通が困難であったが、ご本人の気持ちを尊重した結果、職員との信頼関係が構築され、現在では食事が摂れるようになり、服薬もでき、体力を取り戻し、施設の生活に慣れつつある。ご家族が一番心配していた食事は、最初は1割も召し上がれなかったが、1ヶ月が経過すると毎食全量召し上がれるようになり、体重は入居当初55.4kgだったが、4ヶ月経過し、60kgとなった。		
考察	多職種連携、ご家族との連携、ご家族の想いや心配事を職員間で共有。戸惑っているご本人の気持ちを尊重することで、ゆっくりと信頼関係を構築することが、生活上の問題解決に効果的であることが分かった。全ての問題が解決するわけではなく、問題はまだまだ出てくるが、焦らずにその都度、多職種間で話し合い、解決策を模索することが重要であると考えている。		
アピールポイント 伝えたいこと 他のホーム・取組みと比較した 優位性など	環境の変化や病状によるご本人の戸惑いを受け止め、ひとつひとつ問題の改善を試みて、多職種連携のもとに、新しい生活を構築することができたこと。コロナ禍で面会ができないご家族のご意向や思いを定期的に連絡を取りながら確認し、ご家族も満足いただける対応ができた。		
有老協以外での 本事例の発表・ 応募状況	特にございません。		